

Pinyo

動臨研 野生動物ニュースレター Vol.39



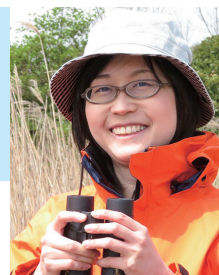
Contents

- ▶ 死んでしまった鳥の活用方法
- ▶ 野生鳥獣の搬入から検査・治療の流れ
- ▶ 第42回動物臨床医学会年次大会
ー市民公開セミナー開催のご案内ー
- ▶ 環境問題分科会サポーター募集
- ▶ 野生鳥獣保護管理基金協力者

三原 菜美
水谷雄一郎

死んでしまった鳥の活用方法

米子水鳥公園 指導員 三原菜美

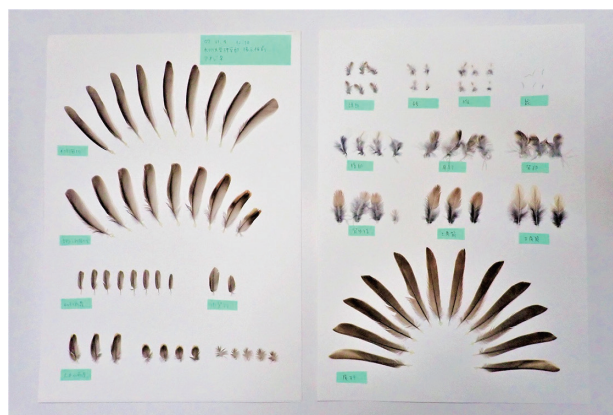


米子水鳥公園は、水辺にやって来る野鳥たちを観察できる施設ですが、しばしば一般の方から、バードストライクや交通事故で死んでしまった鳥を拾ったというご相談を受けます。私自身もこれまで猛禽類に捕食されたり、海岸に漂着した鳥の死体を拾ったことがあり、野鳥の死体は意外と身近なものという認識です。死体と聞くと負のイメージが強く、衛生面からも触ることをタブー視されたりしますが、これらの死体はきちんとした知識を持って適切に処理をすれば、貴重な資料として長期的に保管・活用することが可能です。

博物館施設で死体を資料として活用するときは、基本的にバードストライクや事故死や捕食など、死因が明らかに物理的であるものを扱います。損傷が激しく、体の一部しか残っていない場合は羽毛を抜いて洗浄した羽標本や、水に浸けたり野外で虫に食べさせたりして肉を取り除いた骨標本に加工します。野外で猛禽類に捕食された鳥は翼が丸ごと残されていることがあり、その場合は骨の周囲の肉を丁寧に取り除いた後、ミョウバンで防腐処理を行い、翼を広げた状態で乾燥させて標本化します。

これらの標本はその鳥がその場所にいたという物的証拠になる他、ふだん近づいたり触ることができない鳥の特徴をじっくり観察するのに役立ちます。例えば、カラフルで鮮やかな羽の構造色や、水鳥の体羽の撥水性、風切羽を振ったときの強い空気抵抗などを体験することができます。また、羽は野外で1枚だけ拾うことも多いのですが、種名が明らかな羽標本があると、羽図鑑には載っていない様々な部位や、羽の質感や厚み、透明感など多くの情報が得られ、拾った羽を調べるときに役立ちます。骨標本

は大きな胸筋を支える胸骨や、食性によって異なる形の嘴、利用する環境によって異なる脚の構造を理解するのに役立ちます。



アオジの全身の羽標本



オオセグロカモメの胸骨

比較的きれいな死体が丸ごと手に入った場合は、本剥製や仮剥製にすることが可能です。仮剥製は手順さえ学べば身近な道具で作成できるため、標本作りに興味のある一般の方と一緒に実習を行ったこともあります。制作過程では、体の各部位の計測や、

ロードキルの死体では致命傷となった翼や頭骨など損傷部、飛ぶための筋肉や骨格の構造、胃の内容物、性別などを確認・記録します。



博物館での仮剥製作りの実習の様子

このような標本作りの活動をしていく中で、私は鳥の解剖や剥製作りに興味のある人が潜在的にかなりいることを知りました。以前、博物館で仮剥製作りの実習を公開形式で行った際、通りすがりの来館者が入れ替わり立ち代わり見学に来られました。参加者は、標本を教材として活用したい理科の先生や、鳥が好きな小学生から大学生、博物館関係者、主婦の方など、さまざまです。

一方、立場は違っても標本作りの障壁になっていたのは「興味はあるが、これまでやるチャン스가なかった」という点で共通していました。この他にも、死体の入手・保管先や作業場所などの課題があります。これらの問題は、大阪自然史博物館や北海道大学総合博物館など一部の博物館で行われているように、一般の方と博物館が連携して標本を作ることで、双方にとってメリットに変わると考えています。一般の方にとっては標本作りを学ぶ場所

を得られ、博物館側にとっては、冷凍庫に大量にストックされている死体を標本化できるという仕組みです。今の私の目標は、米子市のどこかでこのような仕組みを少しでも作り出すことです。

放っておけば土に還り、観察記録のみの存在になってしまう鳥も、標本資料として残すことができればイベントなどで活用でき、後世に残せる情報量も増えます。死んでしまった鳥を違った姿で生かし、彼らへの理解を深められる活動を、私はこれからも続けていこうと思います。



水鳥公園に出現した当日にオオタカに捕食されたソリハシセイタカシギ



被食後、標本になったソリハシセイタカシギ



野生鳥獣の搬入から検査・治療の流れ



公益財団法人 動物臨床医学研究所

獣医師 水谷雄一郎

保護された野生鳥獣が病院に搬入されたあと、どのような検査や治療が行われているのか、簡単に紹介したいと思います。

1. 身体検査

搬入時はまず、動物の状態を把握するために視診、触診などの身体検査を行います。野生鳥獣は本来であれば人に捕まることはまずないので、病院に連れてこられる時点で相当なダメージを受けていることが多いです（図 1）。視診で意識が混濁していないか、呼吸状態が悪くないかをチェックします。あまりにも状態がひどい場合には、詳しい検査は後回しにして、緊急治療を優先します。

触診では主に外傷の有無、皮下脂肪の厚さから栄養状態を推測します。鳥類であれば強い外力を受けることによる翼の骨折が非常に多いです。骨折している場合には、折れた骨が皮膚を突き破って外に飛び出していないかが、治療する時に大事なポイントになります。タヌキやキツネなどの哺乳類は、マダニの重度寄生が見つかることも多いです（図 2）。

2. 血液検査、X 線検査など

身体検査を行った後は、動物の状態をさらに詳しく調べるために、必要に応じて血液検査、X 線検査を行います。血液検査では貧血や炎症の有無、肝臓や腎臓の数値、血糖値などをチェックします。ケガで出血が多い場合には貧血になることもありますし、ノミやマダニが大量に寄生して吸血していた場合にも、貧血になります。交通事故で腹部にダメージを受けていた時は肝臓の数値や、CK という筋肉の損傷で上昇する項目が跳ね上がっていたりします。

X 線検査は体の内部の状態について、色々なことが分かります。X 線検査のもう一つのメリットに、検査時間が短いことが挙げられます。撮影に必要

な時間は、早ければ数秒、時間がかかっても 1～2 分です。野生鳥獣は、人に触られることに強いストレスを受けるので検査時間が短いことは大切です。骨折が疑われる症例の場合、触診で折れているようだとは分かりますが、どのような折れ方をしているかについては、X 線検査をしてみないと分かりません。X 線検査の画像を見ることで骨のずれ具合や骨片の数、亀裂の有無といったことが分かります（図 3）。金属の異物を摂取しているときも X 線検査でハッキリと写ります。ショック状態の時は血液循環が悪化しているために、心臓のサイズが小さくなっています。その他にも、体腔内に液体が貯留しているときは、臓器のコントラストが低下しています。

X 線検査で病変が分かりにくい場合には、CT 検査をする事もあります（図 4）。

3. 治療

上記の検査を行い動物の状態を診断した上で、適切な治療を行います。ショック状態の時は点滴をして血液循環の改善を図ります（図 5）。また、必要に応じて ICU 内で保温して酸素投与もします。外傷がある場合には、消毒をします（図 6）。骨折しているときは、まずは添え木を当てて外固定をします（図 7）。動物の状態が安定した後に、必要に応じて手術を行います（図 8）。傷の治りが悪い場合には、光線治療を併用することもあります（図 9、10）。

保護されてきた動物はやせて栄養状態が悪いことがあります。体調が悪いと食欲が出ないことがありますし、治療中の環境に警戒してエサを食べないこともあります。しかし、十分な栄養が摂取できないと衰弱が進行したり、傷や病気の治りが悪くなります。そういった時は、流動食などを強制給餌します（図 11、12）。その他にも、体の汚れがひどい場合には洗体をしたり、ケージレストの期間が長い鳥の

場合には、放鳥の前にリハビリの一環として飛行訓練を行います。

搬入された動物が鳥類の場合には、細菌感染の有無にかかわらず、一定期間抗菌剤の投与をします。これは、病院のスタッフがオウム病に感染するリスクを下げるためです。オウム病は、オウム病クラミジア (*Chlamidia psittaci*) の感染によっておこる病気です。鳥には症状を示していなくても、保菌して

いることがあります。ドバトではおよそ 20% が保菌しているといわれています。人が感染すると、高熱がでたり、肺炎を起こす可能性があります。野生鳥獣の保護は動物を治療することはもちろんですが、スタッフがケガや病気をしないようにすることも大切です。1 頭でも多く、野生復帰できるように治療しています。



図 1 衰弱して搬入されたアナグマの外観



図 4 脊髄損傷のハタカのCT画像



図 2 マダニが寄生したアナグマの外観
右頸部の皮膚に吸血して大きくなったマダニが多数寄生している。



図 5 静脈点滴しているキツネ
左前肢の血管を確保して点滴をしている。点滴の機械はケージの外に設置している。



図 3 橈尺骨骨折のチョウゲンボウの X 線画像



図 6 傷の消毒の様子



図7 骨折した翼をバンテージで固定している様子



図10 光線治療の様子

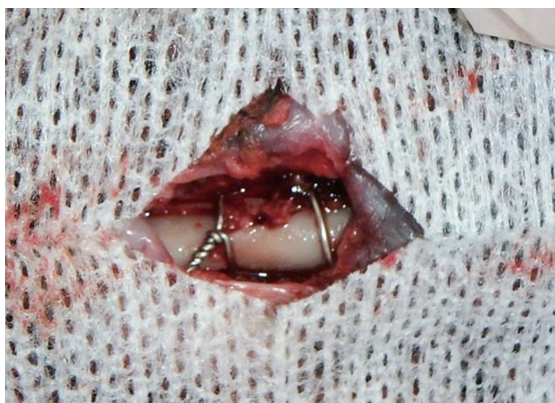


図8 手術の様子
骨折を髄内ピン（骨の中なので写真では見えません）とワイヤーで整復したところ



図11 カモに強制給餌用のカテーテルを挿入している様子



図9 光線治療の様子



図12 カモに流動食を強制給餌している様子



第42回動物臨床医学会年次大会（オンライン学会）開催のご案内

下記日程にて、年次大会を開催致します。

市民公開セミナーは、無料配信です。是非ご参加下さい。

（下記内容以外は有料となります。詳しくは当方ホームページをご覧ください）

会期：11月20日(土)・21日(日)

*アーカイブ配信：12月5日(日)まで

主催：公益財団法人動物臨床医学研究所・動物臨床医学会

聴講はこちらから ▶ <https://dourinken.com/>



市民公開（無料配信）

環境問題分科会

プラスチック汚染と私達の健康

講師：高田 秀重 先生（東京農工大学）

野生鳥獣分科会

イリオモテヤマネコの保護に貢献する獣医療 ～離島の動物医療提供から制度設計まで～

講師：長嶺 隆 先生（NPO法人どうぶつたちの病院 沖縄）

いずれのセミナーも、実際の研究や現場での経験を踏まえた内容でお届け致します。とても興味深い内容です。是非ご視聴下さい。

公益財団法人動物臨床医学研究所 野生どうぶつ友の会
<http://d-wildlife.jp.org/>



今、地球上で大きな問題となっている環境問題に興味はありませんか？

当公益財団法人では、従来の学術活動をはじめ、野生鳥獣保護活動、動物の愛護活動等、多くの方々の御協力の下、活動を展開して参りました。さらに昨年度より、現在地球上で大きな問題となっている環境問題について取り組むための分科会を立ち上げました。

私達にできる環境問題への取り組みを是非一緒に始めませんか。

環境問題の種類は

環境問題は地球温暖化、大気汚染、水質汚染などの自然環境問題と、伐採における森林減少、戦争、紛争などによる自然破壊による人為的環境問題、さらに政治、行政、経済などのモラルの欠如、文化の崩壊等の社会的環境問題の大きく三つに分類される。そのいずれもが人間が関係している問題で具体的には水資源の欠乏、砂漠化、オゾン層破壊、海洋汚染、水質汚染、食糧減少、生物多様性の危機、地球温暖化、エネルギー問題、ゴミ問題、廃プラ問題等大変多岐にわたり今や数えきれない状況を招いています。

私達にできること

私達は人類のこれまでの行いを反省し、生物達と共生・共存が出来る地球を目指すため、国民的レベルで一人一人が意識をもって環境問題に向き合うべきではないでしょうか。

救われることに、多くの環境問題は、国や団体ばかりでなく、個人でも解決出来ることがあります。初めは小さい力ではありますが、この運動を国民レベルにまで引き上げれば、いつかは大きな力となります。美しい地球を次の世代に渡すためにも、力を合わせてみませんか。

地方創生 SDGs
官民連携
プラットフォーム

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



現在、環境問題分科会（地球温暖化防止対策等）サポーターを広く募集しています（会費等の負担は一切ありません）。この活動にご賛同頂ける方は、事務局までご連絡下さい。



詳しくはこちらから ▶ <https://dourinken.com/forum/kankyo-bunkakai/>

《表紙の動物》

シジュウカラ

平地から山地に生息しています。住宅地で見かけることもあります。

写真は京都市北西部の桜の楽園として有名な某所に、桜を見に行つた時に撮った1枚です。満開の桜には少し早かったのですが、色々な花が所狭しと咲き乱れていて楽園との評判も納得でした。桜の苑を出たところの木に数羽のシジュウカラがいました。チッチと鳴いて、春の訪れを楽しんでいるようでした。



2021年3月1日から2021年9月30日までに野生鳥獣保護管理基金にお寄せいただきました総額は、**33,112円**でした。ご協力頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。

野生鳥獣保護管理基金に御協力お願い致します

近年、人間活動が野生動物の領域にまで広がる一方で、里山の崩壊や気候変動、在来種の増加など、人と野生動物において様々な問題が生じています。

野生どうぶつ友の会は、絶滅危惧種を含む疾病野生動物を再び野生に戻す活動を通じて、命の大切さや動物愛護思想の普及を図っております。

当方の活動は、まだまだ微力ではございますが、長期にわたり続けて参ります。今後とも、御理解御協力を賜りますようお願い申し上げます。

<基金送付先>

郵便振込：口座番号 01430-6-14893

口座名：公益財団法人動物臨床医学研究所 野生鳥獣保護管理基金

編集部だより

Pinyo 第39号をお届けしました。

表紙の写真の場所は、北山台杉などを育てている方が数世代かけて作ったそうです。北山と言えば源氏物語の中で、光源氏が北山で垣間見をする有名な一節があります。光源氏が若紫を見初める場面ですが、その時にスズメとカラスが出てきます。平安の昔から物語や和歌には多くの鳥が出てくるそうです。鳥の鳴き声で時を感じたり、和歌の中で思いを託したりと、今と変わらない人の日常を感じます。どの物語かは忘れましたが、老夫婦がのどかな外の様子をみながら、色々あったけど良かったねと、そんな終わり方をする古典があったような……。今はまだ世界中がコロナで大変ですが、遠からず、そんな日が来ることを願っています。

水谷雄一郎

.....

公益財団法人 動物臨床医学研究所 野生どうぶつ友の会

〒682-0025 鳥取県倉吉市八屋 214-10

Tel 0858-26-0851 / Fax 0858-26-2158

E-mail dorinken@apionet.or.jp / URL <https://dourinken.com>
<http://d-wildlife.jp.org/>

.....

ニュースレター「Pinyo」 Vol.39 (2021年10月)

発行：公益財団法人 動物臨床医学研究所 野生どうぶつ友の会